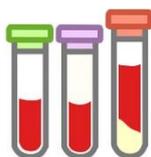


血液検査でわかる『がん』について ～腫瘍マーカーとは？～

がんが発生すると、そのがんが特徴的な物質を産生する場合があります。なかでも血液中で測定可能なものを「腫瘍マーカー」といい、その数値を測定することで、がんの有無や進行度、治療効果などの判定や、治療方針に役立てることができます。



採血



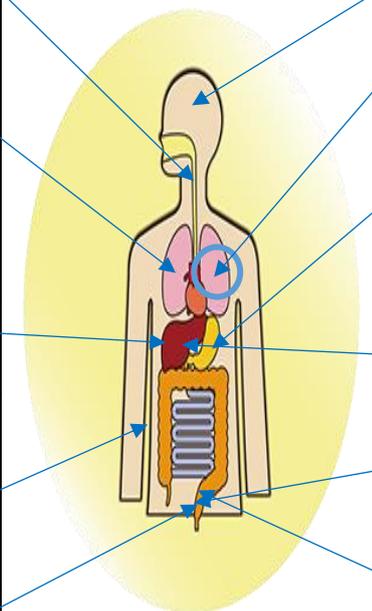
がんに対する抗体を検出



治療効果の判定 今後の治療方針の決定

臨床の場で活用される腫瘍マーカーを下記に示します。

腫瘍	腫瘍マーカー
食道がん	SCC
肺がん	CA-125 CEA
扁平上皮がん	CYFRA SCC
小細胞がん	NSE ProGRP
肝臓がん	AFP PIVKA-II
大腸がん	CEA NCC-ST-439 STN CA72-4
前立腺がん	PSA



腫瘍	腫瘍マーカー
神経芽細胞腫	NSE
乳がん	CA-125 CEA CA15-3 NCC-ST-439
胃がん	CEA STN CA72-4
膵臓がん	CA-125 CEA CA19-9 NCC-ST-439 SLX STN
子宮がん	β HCG SCC
卵巣がん	CA-125 CA72-4 β HCG STN SLX



上記のうち赤字の項目は院内での測定が可能で迅速に値を知ることができます。ただし!!腫瘍マーカーの値は良性の疾患や加齢、感染症、喫煙などの影響で高くなることもあります。そのため、その他の血液検査、X線やCT、血液造影などの画像診断、生検などを組み合わせて総合的に診断する必要があります。
あくまで、がんかどうかの可能性を判定する目安のひとつなのです。